

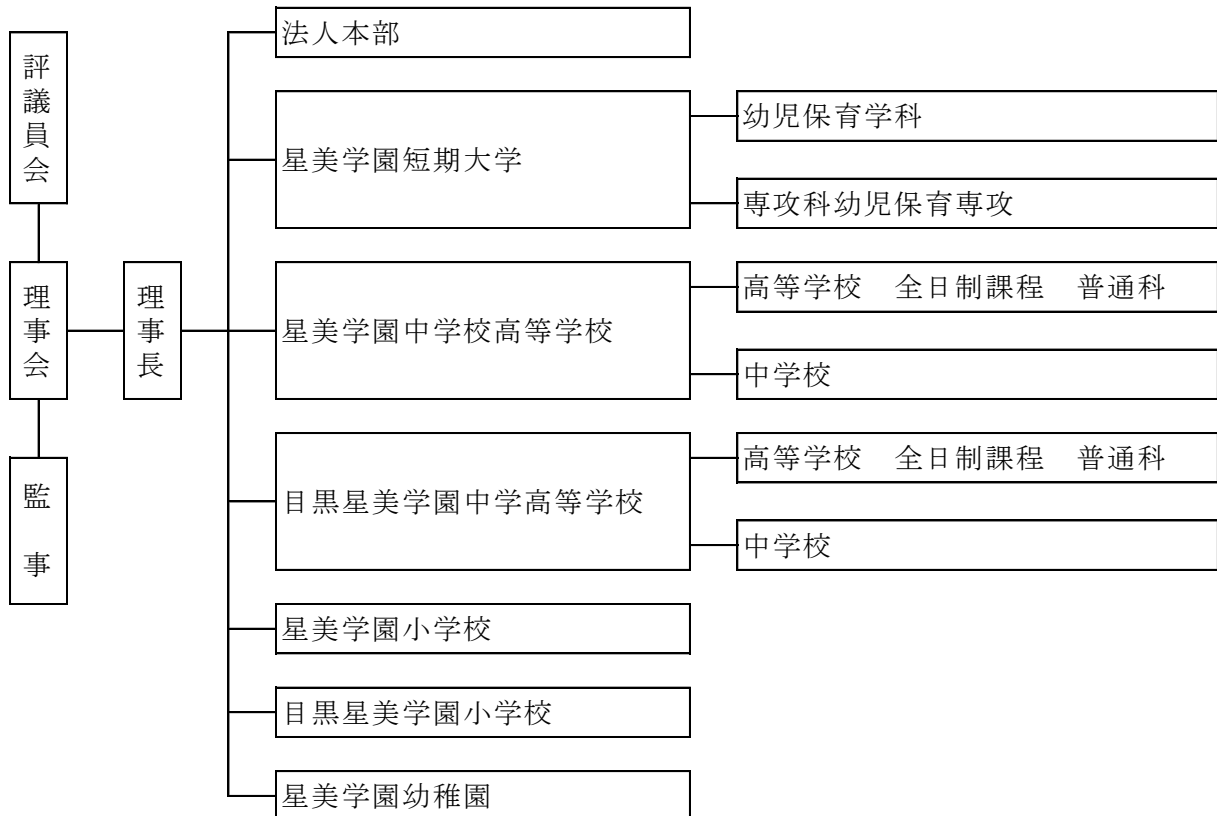
# 令和2年度事業報告書

## I 法人の概要

### 1 建学の精神

学校法人星美学園は、我が国の教育基本法及び学校教育法に従って、扶助者聖母会の創立者聖ヨハネ・ボスコの教育理念である「予防教育法による全人間教育」、すなわち、理性・宗教・慈愛に基づき、家族的教育環境の中で、「誠実な人間、良い社会人を育てる」ことを目的にカトリック・ミッション・スクールとして教育事業に取り組んでいる。

### 2 学園組織



### 3 所在地

校名	所在地
法人本部	〒115-8524 東京都北区赤羽台四丁目2-14
星美学園短期大学	
星美学園中学校高等学校	
星美学園小学校	
星美学園幼稚園	
目黒星美学園中学高等学校	〒157-0074 東京都世田谷区大蔵二丁目8-1
目黒星美学園小学校	〒152-0003 東京都目黒区碑文谷二丁目17-6

### 4 沿革

1929年12月	イタリアからシスター・レティツィア・ベリアッティ他5名の宣教女来日
1940年12月	東京三河島「星美学園」創設
1947年01月	星美学園小学校設置認可
1947年04月	星美学園中学校設置認可
1948年03月	星美学園高等学校設置認可
1951年03月	学校法人星美学園設立
1953年01月	星美学園幼稚園設置認可
1954年03月	学校法人星美学園，星美学園第二小学校設置認可
1955年03月	星美学園第二小学校校舎落成（西側半分落成）
1956年10月	「学校法人目黒星美学園」として寄付行為認可 「星美学園第二小学校」を「目黒星美学園小学校」に改称
1959年11月	目黒星美学園中学校設置認可
1960年01月	星美学園短期大学家政科設置認可
1962年09月	目黒星美学園高等学校設置認可
1963年04月	短期大学保育科新設
1967年04月	短期大学国文科新設
1969年05月	短期大学各科の名称を改称（家政学科，幼児教育学科，国文学科）
1971年07月	目黒星美学園中学高等学校体育館完成
1972年02月	目黒星美学園小学校体育館完成

1980年05月	星美学園中学・高校特別教室棟・体育館落成
1985年07月	星美学園プール・南グラウンド竣工
1991年05月	目黒星美学園中高講堂落成
1993年04月	短期大学家政科を生活文化学科と改称
1999年12月	短期大学国文学科・生活文化学科を改組し，人間文化学科とする設置認可
2000年06月	目黒星美学園小学校新校舎落成
2003年04月	短期大学専攻科幼児教育専攻設置
2004年05月	短期大学日伊総合研究所設立
2005年04月	短期大学幼児教育学科を幼児保育学科に改称 専攻科を専攻科幼児保育専攻に改称
2007年04月	目黒星美学園中高6年一貫教育体制導入
2009年04月	短期大学人間文化学科専攻科イタリア語イタリア文化専攻設置
2011年03月	目黒星美学園中高校舎建替工事完成
2012年08月	星美学園防災非常用倉庫設置
2015年04月	短期大学人間文化学科・専攻科イタリア語イタリア文化専攻 廃止
2016年04月	学校法人星美学園と学校法人目黒星美学園合併
2018年04月	短期大学男女共学開始

## 5 校種別入学者数，在籍者数の状況

令和2年5月1日現在

校種	学部等	入学定員	収容定員	在籍者数
星美学園短期大学	幼児保育学科	100	200	146
	専攻科幼児保育専攻	100	100	64
	小計	200	300	210
星美学園高等学校	全日制 普通科	150	450	201
星美学園中学校		150	450	149
目黒星美学園高等学校	全日制 普通科	注(90)	270	222
目黒星美学園中学校		90	270	208
星美学園小学校		120	720	595
目黒星美学園小学校		120	720	656
星美学園幼稚園		72	240	229
学園合計		902	3,420	2,470

注：目黒星美学園高等学校は、高校からの入学募集をせず、目黒星美学園中学校の内部進学者のみ。

## 6 教職員の状況

令和2年5月1日現在

区分	学園長	学長・ 校長等	教頭・ 副学長	教員			小計	職員				小計	合計
				教諭	非常勤 講師	嘱託		事務局 局長	事務部 長等	事務局 員等	嘱託		
法人本部	1						1	1				1	2
短期大学		1		10	42		53		1	5	2	8	61
星美学園 高等学校		1	1	21	3		26		1	9	1	11	37
星美学園 中学校		(1)	(1)	15	5	1	21		(1)	5	1	6	27
目黒星美学園 高等学校		1	1	18	4		24		1	5	1	7	31
目黒星美学園 中学校		(1)	(1)	21	9		30		(1)	6	3	9	39
星美学園 小学校		1	1	37	3	2	44		1	10	1	12	56
目黒星美学園 小学校		1	2	38	5		46		1	7		8	54
星美学園 幼稚園		1	1	15		3	20			2	1	3	23
合計	1	6	6	175	71	6	265	1	5	49	10	65	330

7 役員・評議員の状況（令和2年5月1日現在）

(1) 役員の定数及び実数

区 分	定 数	実 数
理 事	8名以上11名以内	11名（うち外部理事2人）
監 事	2名又は3名	2名（うち外部監事2人）

(2) 役員

役 職	氏 名	勤務形態	選任区分	摘 要
理事長	鈴木 裕子	常勤	学園長	本学園学園長
理 事	阿部 健一	職員兼務理事	学長	短期大学学長
理 事	若松悠紀子	職員兼務理事	校長	目黒星美学園中学高等学校校長
理 事	森下 愛弓	職員兼務理事	校長	星美学園中学校高等学校校長
理 事	見城 澄枝	職員兼務理事	評議員	星美学園幼稚園園長
理 事	小島 理恵	職員兼務理事	評議員	目黒星美学園小学校校長
理 事	吉田登代子	職員兼務理事	評議員	星美学園小学校校長
理 事	森下ワカヨ	非常勤	学識経験者	外部理事（宗教法人カトリック 扶助者聖母会代表役員）
理 事	青木 二郎	非常勤	学識経験者	外部理事（弁護士）
理 事	福岡 豊	職員兼務理事	学識経験者	法人事務局長
理 事	宮脇 道子	職員兼務理事	学識経験者	目黒星美学園中学高等学校非常 勤講師
監 事	三田村典昭	非常勤	—	公認会計士
監 事	最首二三夫	常勤	—	元日立オートモティブシステム 株

(3) 責任免除・責任限定契約，保証契約・役員賠償責任保険契約の状況  
契約なし。

(4) 評議員の定数及び実数

区 分	定 数	実 数
職員評議員	18名以上23名以内	16名
非職員評議員		7名
計		23名

## (5) 評議員

氏名	職員・非 職員の別	選任区分	摘要
森下 ワカヨ	非職員	宗教法人代表役員	宗教法人カトリック扶助者聖母会代表役員
鈴木 裕子	職員	学園長	本学園学園長
阿部 健一	職員	学長	星美学園短期大学学長
若松 悠紀子	職員	校長	目黒星美学園中学高等学校校長
森下 愛弓	職員	校長	星美学園中学校高等学校校長
小島 理恵	職員	校長	目黒星美学園小学校校長
吉田 登代子	職員	学園の職員	星美学園小学校校長
福岡 豊	職員	学園の職員	法人事務局長
星野 和江	職員	学園の職員	星美学園小学校教頭
江崎 節子	職員	学園の職員	星美学園幼稚園教頭
塚田 憲邦	職員	学園の職員	目黒星美学園中学高等学校事務長
坂井 佐奈栄	職員	学園の職員	星美学園小学校教諭
青木 二郎	非職員	評議員から選任された理事以外の理事	弁護士
見城 澄枝	職員	評議員から選任された理事以外の理事	星美学園幼稚園園長
浦 洋子	職員	学園の卒業者	法人事務局職員
谷田部 美佳	非職員	学園の卒業者	上智大学短期大学部准教授
宮脇 道子	職員	学園の卒業者	目黒星美学園中学高等学校非常勤講師
飯田 和俊	非職員	学識経験者	三菱ケミカル（株） 監査部マネジャー
栗林 勝彦	非職員	学識経験者	（株） aoyama FUJI 代表
角田 誠	非職員	学識経験者	（株） 角田誠事務所代表取締役
赤木 純子	非職員	学識経験者	宗教法人カトリック扶助者聖母会役員
小泉 三千代	職員	学識経験者	星美学園中学校高等学校副校長
小林 由加	職員	学識経験者	星美学園短期大学非常勤講師

## II 事業の概要

### 1 部門別の諸活動報告（教育事業）

#### (1) 学校法人

学校法人は、時代の要請に基づき、中学校及び高等学校の学校改革を推進し、令和4年4月1日から星美学園中学校高等学校を、令和5年4月1日から目黒星美学園中学高等学校を共学化し、校名を変更することを評議員会です承し、理事会で承認した。次年度も、法人が一体となって中学校及び高等学校の改革を推し進める。

#### (2) 法人本部

##### ア 寄附行為の見直し

令和元年私立学校法の改正に伴う寄附行為の変更認可申請に引き続き、常勤監事の設置、監事の理事会出席、役員を選任要件の明確化及び資料の電磁的方法による受配信を可能にしたことなどの寄附行為の変更を行い、令和2年9月2日付で文部科学大臣から認可を受けた。

##### イ 中学校高等学校の共学化の支援

校名変更による寄附行為の変更、必要な資金確保、校名変更・共学化の学園内外への公表など令和2年度に学校改革を順調に推進することができた。令和3年度は、星美学園中学校高等学校の募集が開始される重要な年度であることから、引き続き支援を行っていく。

##### ウ 星美学園中学校高等学校普通教室棟等改修工事の確実な実施

星美学園中学校高等学校普通教室棟等改修工事は無事に年度内に完成できた。また、共学化及び新型コロナウイルス感染症防止のため、補正予算を作成し、体育館の暖房機器を補助金が申請できる換気機能付き空調機に更新し、小学校・中学校高等学校の保護者への共学化等の説明会に使用することができた。

##### エ 学園敷地の有効な活用の検討

施設設備などの構想案を土地・既存建物を勘案して設計し、問題点を見える形にして各校種から意見を出してもらい、土地有効活用の意見集約を図る。

##### オ 新型コロナウイルス感染症対策

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による授業への影響を抑えるため、消毒、体温検査及びリモート授業に必要な機器の導入を支援した。また、理事会及び評議員会などの会議をリモート会議方式で行い感染防止を図った。

### (3) 星美学園短期大学

#### ア 共学化の確実な実施と周知

コロナ禍の中での広報活動であったが、男子学生5名の入学を得ることができた。広報媒体には、必ず「男女共学」の文言を入れた。

#### イ 高等教育の就学支援新制度（以下「新制度」という。）への対応

在学3年にわたって新制度の支援が受けられるよう、修業年限を3年に変更申請したが、不調に終わった。そのため、専攻科については、新制度の授業料減免部分に対して、「星美学園授業料等減免規程」で対応することになった。

#### ウ 発達障がい児保育ベーシックプログラム

本学独自のこのプログラムを通して、本学の目指すところ、すなわち特別なニーズをもつ子どもに対する深い理解と共感性をもち、日々の課題を適切に処理できるだけでなく、共生社会に目を向けたインクルーシブ保育のミドルリーダーになりうる人材の育成について、オープンキャンパス参加者に理解していただくことを目指した。

#### エ テアトロ SEIBI

コロナ禍のため、一般の公演は実施できなかった。オンラインでの話し合い、動画での発表という形になったが、企画運営力、協調性、創造力、コミュニケーション力の育成という教育目標の達成を目指した。

#### オ 公開講座（地域等貢献）

コロナ禍により、公開講座、セミナーは、すべて中止となった。令和3年度は、オンライン講座に切り替えることとした。

#### カ 子育て支援

コロナ禍により、すべて中止となった。

#### キ 就職指導

コロナ禍により、年度当初は、学生から不安の声があったが、電話等で個別に対応し、不安の低減を図った。後期は、対面の就職相談も開始し、結果的には、例年並みの就職指導が行えた。

就職状況は、下記のとおりだった。



本科	人数	%	専攻科	人数	%
児童養護施設	1	1	幼稚園	13	21
一般企業	2	4	保育所	28	46
専攻科進学	52	91	こども園	1	2
その他	2	4	公務員	5	8
合計	57	100	療育施設	2	3
			児童養護施設	3	5
			特別支援学校	4	7
			一般	2	3
			進学	2	3
			その他	1	2
			合計	61	100

#### (4) 星美学園中学校高等学校

ア 共学化に向けて、学校改革計画を策定して着実に諸準備を実施していく。

学校改革委員会を設置した。委員会でロードマップの作成し、それに沿って、教員全員で改革の準備をした。

#### イ 授業力向上研修会

外部講師を招き、授業研究を行う。授業の振り返り、座談会等を通して、授業の向上を推進する。

コロナ禍で時期はずらしたが、予定通り実施することができた。授業者も見学者も、外部講師によって授業に対する新たな示唆を得ることができた。授業者は個人的な指導と点数化された評価と総評が書いている帳票をもらい、今後の授業の参考となった。

#### ウ 星美授業メソッド

##### (ア) iPad を活用した授業の実施・報告

ほとんどの授業で iPad を利用している。今年度は、iPad に入っているアプリの活用の見直しを行い、授業に活用できているものは残し、あまり活用できていないものは、他のものと変換することにした。その際、教員の研修をし、来年度に備えた。

##### (イ) ルーブリックによる評価の実施

今年度より全学年が一人一台の iPad を持ち、授業はもとより家庭学習でも使用する。

コロナ禍にあり、iPad の利用はかなり増えた。授業だけでなく家庭での利用は、かなり上がってきている。ルーブリックに関しては旧タイプのものでやっていたが、PBL型授業にマッチしたものを中1高1の分を全教

科で作成した。

(ウ) 中学生の基礎学力をつけるための放課後自習室の開室

試験前の放課後教室を解放し、「すらら」を活用した自習室を開室。

チューター2名（プロ）在中。

コロナ禍でできないときもあったが、何回か実施したが、実際に効果はあまりなく、次年度は別の業者の提案のものを、受益者負担で実施することにした。

エ 新指導要領に伴う教育内容の研究（新指導要領対策委員会の設置）

(ア) 新カリキュラムの検討……将来の職業を意識したカリキュラム編成の作成を中心に行う。

学校改革が本格的になり、現在のカリキュラム（高3・2）、移行カリキュラム（高1）、3年間のカリキュラム（中3・2・1）、6年一貫カリキュラム（小6）を考え、調整の段階に入っている。

(イ) 新大学入試制度改革への対応とこれに伴うICT関連教育の推進

初めての新大学入試制度実施にあたり、その実態とそこからの反省と次年度にむけての対策を練ることができた。生徒たちがICTを活用して、大学とつながるように指導をした。

(ウ) 英語4技能授業の推進

コロナ禍のために、一斉発音が難しくなり、英語の授業はかなり制限されてきた。また、英検などの外部試験の機会も少なくなり、厳しいものがあったが、高3に関しては、前もって準備をしていたために、混乱は避けられた。

(エ) 教科横断型授業と探究型授業の推進

学校改革に伴い、個人研究の導入を決め、それに向けて少しずつ教科横断と、探究授業の枠組みを設定し始めることができた。

(オ) 国際プログラム

中学校内英語研修会、マルタ島語学研修、海外研修旅行及びイングリッシュキャンプは、コロナ禍のためにすべて中止となった。

(カ) 中高一貫キャリア教育 中学のまとめ

職場体験

生徒が各企業に行く前に、保護者（父親）の会が事前教育を支援。実際に企業に行つての体験は中止したが、電話やズームを通して、企業への質問をまとめ、レポートにした。父親の会による事前面談は実施し

た。

#### オ 募集広報

- (ア) 夏の理科実験教室（東京理科大学と連携）
- (イ) クリスマスフェスティバル（赤羽×星美のコラボ）
- (ウ) 幼・小・中高・短大教職員間の交流促進
- (エ) 同窓会サポートチーム設立
- (オ) 塾・中学校・教会との連携の強化

コロナ禍のために中止や関係強化ができなかった。しかし、新しい学校のためのパンフレット作成や、広く周知するためのリーフレット等の準備をすることができた。

#### カ 普通教室棟のリフォーム

普通教室棟全体を教育的な環境を向上させるために、リフォームを行う。コンセプトは「共に喜び、共に生きる」を体現できる教育環境である。3つの柱は、次の通り。

- (ア) 安心感を与え自信を持たせる……開放的で木の温もりを感じられる温かみのある空間を創設する。
- (イ) 自ら学び共に学ぶ生徒を育む……多目的なスペース、英語教室を増設し、アクティブラーニング、ICT教育を促進する。
- (ウ) 長期的に使用できる……耐久性を保持し、断熱性、効率性を高める。  
長い期間をかけてのリフォームは完成し、大変満足するような成果を上げることができた。生徒も保護者も満足している。

#### キ 給食業者による弁当配食

保護者負担の軽減の観点で、希望者に対する弁当配食を始める。  
コロナ禍のために実施できなかった。

#### (5) 目黒星美学園中学高等学校

共学化策定を視野に、まず教育内容を始め学校内の改革を進めてきた。

#### ア 21世紀を生きる女性の育成

21世紀を生きる女性像は、「真の主体性を持つ女性」であり、「Faccio io」を体現できる女性。

- (ア) 多様性を認め、他者に対して共感的理解ができる。
- (イ) 非言語コミュニケーションを駆使し、双方向的コミュニケーションが行える。
- (ウ) 問題解決のために他者と協働し、自己実現と社会貢献を達成できる。

## イ V C P（ボランティア・コミュニケーションプログラム）の推進

学内外でのボランティアを軸にして、様々な活動の経緯や実践を通し P D C A サイクルを経て自己の学びを深め、課題発見・解決能力を養った。

→今までの取り組みの総称として位置づけ、これからは SDG s 教育と目的を統一させて実施した。

## ウ I C T 推進 情報通信技術

タブレット PC・Classi（プラットフォーム）をさらに充実させる。

### ①Classi の新機能の利用

デバイスフリーで利用できるアクティブ・ラーニングツール。プリセットされている教材や、手持ちの PDF の教材・写真をアップロードするだけで、生徒の学習状況をリアルタイムに把握でき、生徒同士の解答を共有することで「みんなで学び合う」学習環境を構築できた。生徒個人個人のアクティブ度や学習記録を可視化することで、学習ログ分析をして生徒の学習理解度の把握もできた。

## エ 高大接続改革の対策・新カリキュラムに向けた枠作り

### 新カリキュラム対策委員会

教務部・指導部のメンバー、時に、教科のメンバーから選出して、方向性や大枠について決めていくことができた。

大学との教育連携や新大学入試改革についての研鑽に努めた。

### \*言語力向上プロジェクト＝探求推進

毎月、1週間をあてて全校で努力した。

主体性を育て主体的に物を考え表現出来るよう、下記のプランで実施。

伝え合うトレーニング（最終はディベート） 聴くトレーニング

話すトレーニング

共学化を視野に、21世紀型教育のための「新カリキュラム対策」を進めてきた。

(ア) 問題分析から授業への還元方法を検討・推進した。

(イ) 調査書・ポートフォリオ・外部検定について、検討・推進した。

## オ 英語教育の推進

大学入試改革に対応した英語教育の推進をはかるために、英語教育計画を策定。4技能のスキルアップをはかる英語教育指導力の向上・教材開発・オンライン英会話教育をさらに推進した。

英語教育の充実のための検討を続けている。

- ・ターム留学
- ・ホームステイ先の新たな検討
- ・サレジアンカレッジ短期交換留学

#### カ 高大接続プロジェクトの発展

##### (ア) VCP 推進委員会（ボランティアコミュニケーションプログラム）

VCP を総合的な探求学習を視野に、SDG s , 持続可能な開発のための教育 (ESD), に取り組むユネスコスクール加盟申請をしたが、2年度は加盟できなかったため、次年度の課題とする。

地球上の環境問題、気候問題、人権問題など、グローバルな対話に向けた普遍的な連帯とつながる意識が育ってきている。その一端を担える学校教育において、活動は、生徒の人的成長につながることを期待してきた。

生徒や保護者のニーズを正しく把握し、的確に応えていくために新学習指導要領をふまえ、発足している高大接続プロジェクトを推進する努力をした。

- ・探求活動の方向性・内容・評価の検討については現在も進行中。

以下の計画は、コロナ禍に阻まれて実行が困難であった。しかし、グループ活動や発表で生徒会が活動し、熊本・東北の被災地、お世話になっている宿泊施設などに校内募金をして献金した。

- ・インターンシップ・ボランティア教育 防災教育
- ・被災地ボランティア研修 ・宮城県 福島県 中止
- ・フィリピンボランティア研修 中止
- ・地域活動など防災も含めて活動や発表に取り組んだ。

##### (6) 星美学園小学校

###### ア 教育重点目標の充実（サレジアンカラーに生きる教師として）

月曜日の朝に、福音を朗読したり、月1回の職員会議の前に10分間研修として、今月のみ言葉について分かち合いの機会を持ち、「からし種」の時間の指導に役立てた。

###### イ 「星美のかしこい子」

星美のかしこいこの中から、㊦「神様と人の前に正直な子」を重点的に指導した。昨年のストレンナ「誠実な社会人、キリストに倣う者」を意識し、良心の声に従い、誠実な人間になるよう声をかけたが、まだ自分がした行いを正直に認められない児童が見られる。

###### ウ 新学習指導要領実施に向けてのカリキュラムの実施

令和2年度は、6月からの分散登校で、宿泊学習は全て中止にした。総合的な学習の授業時間は不足したが、その分の時間で他の教科のカリキュラムの指導内容は終了できた。

道徳の教科化に伴い「からし種」の時間として担任（専科）が宗教科道徳の授業を行い、3学期は、全担任が「からし種」の授業を行い、その授業案を提出し、次年度に生かすようにした。

#### エ ICT教育の充実

ロイロノート・スクールを全学年導入し、学校内での通常の授業及び休校中のオンライン学習、総合的な学習などで活用ができた。

プログラミング学習では、限られた時間の中で、全学年、プログラミング教育を行った。

#### オ 教員研修

コロナ禍の中、予定していた全校研修は密を避けるために行わなかった。学年や教科など少人数で授業研究を行った。

夏休みに研修し、浦田神父様からドン・ボスコの教育法についてお話を伺い、2学期からの指導に生かした。

校務システムを本格的に導入し、研修を行い、有効に活用できるようになった。

年度の終わりに最首監事から、ハラスメント防止について研修を行った。

#### カ 生活指導

6年生が落ち着いていたので、学校全体が落ち着いた雰囲気での生活できた。感染防止のため、三密の回避、黙食、大きな声を出さないことを指導してきた。

いじめ調査を年4回実施し、児童の声を吸いあげた。「いじめられている」と書いた児童には複数で聞き取りを行い、状況を判断し、解決に努めた。年間を通して、学校全体としていじめの大きな事案はなかった。

#### キ 施設・環境の充実

新型コロナウイルス感染症対策のために、父母の会からの寄付金でサーマルカメラ、全教室の空調施設に空気清浄フィルター、昇降口に児童消毒ディスペンサーを設置した。

体育館裏の畑に例年、サツマイモの栽培をしていたが、今年は苗植えの時に休校だったので、2年生が生活科で有効活用し、その時期ごとに児童が食べられる野菜などを育てた。

今まで、「レインボールーム」としてパソコンが置いてあった部屋を改装し、家庭科室として利用できるようになった。

耐震対策のために全ガラスに飛散防止フィルムを貼ったり、室内の本箱や棚が動かないように固定した。

#### ク 魅力ある学校作り

コロナ禍の中、全校で集まっての行事はできなかったが、時間を分けたり、内容を工夫したりして、できることを探りながら実施した。運動会、縄跳び集会、クリスマス会などでは保護者からの感謝の言葉をいただいた。

6年生は平和学習には行けなかったが、学習した内容を基に平和学習発表会を録画の形で全校児童と保護者に見せ、星美学園小学校として20年以上行っている平和学習のバトンを次学年に繋げることができた。

児童が自己の将来を見通しながら、社会的に自立できる資質・能力を身に付けるために1年生からキャリア・パスポートを作成し、キャリア教育の充実を図った。

コロナ禍で欠席する児童もいる中、家庭での学習がきちんとできるようにロイロノートを利用して学習したことを配信し、きめ細やかな指導を心がけた。

#### ケ 学校生活の安全確保

学校危機管理マニュアルの検証・見直しを随時行い、児童の安全に努めた。

避難訓練は密になるので、1学期は行わず、2学期以降3回行った。

#### コ 入試広報

学校説明会は、密になるので全て中止とした。1学期と2学期に1週間ずつ少人数での学校見学を計画し、毎日20人程度で簡単な説明会の後、授業見学を行った。少人数で対応できたので、かえって丁寧に広報活動ができた。

説明会ができないので、学校の教育内容と入試について、ユーチューブで配信した。

1年生の入学者は98名で、内部幼稚園からは34名の入学者があった。今後とも内部幼稚園とのつながりを大切に広報活動をしていく。

### (7) 目黒星美学園小学校

ア こころの教育 → コロナ禍にあって、特に「つながり」を大事にした。

(ア) 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため試行錯誤しながらの一年であったが、「児童の安心・安全」を第一に考えて対策を練り、4月、

5月は休校に、その後7月までは分散登校を実施した。

休校中は、児童が寂しい思いをせず、学校や教員とつながりが実感できるように、教員の自己紹介動画や校舎内の様子をホームページにアップしたり、みことば朝礼を配信したりした。そのほか、担任がクラスの児童一人一人に電話をかけ、直接話をする時間を取った。

2学期・3学期は、朝礼の時刻を早めた上、授業時間を40分とし混雑を避けて下校できるよう工夫したり、東急バスと掛け合っ下校時刻に増便を依頼したりしながら、安全を確保できるようにした。感染を心配して欠席する児童に対しては、課題を送ったりロイロノートでのやり取りをしたりしながら、学習できるよう配慮した。また、朝礼にはGoogle meetで参加し、クラスの先生や友達の様子を見たり返事をしたり会話したりすることで距離感を縮めることもできた。

保護者からはオンライン授業をしてほしいという声もあったが、本校としては児童全員が同じ環境で学習できることを前提に様々な決定をしていたので、その段階では行わないことを伝え了承を得ていた。令和3年度はこれよりもレベルを上げ、オンライン授業を行うことができるか、ICT担当教諭を中心に可能性を探り、必要な環境設定を春休み中に行った。

子ども達の安心・安全を第一に進めていくという学校の方針に、ほぼ全家庭が賛同、協力してくださり、感謝の言葉や教員への励ましの言葉などを多くいただいた。学校と家庭が手を取り合っ大変な一年を乗り越えられたと実感できた。

- (イ) 「道徳」の教科化に伴い、新たなカリキュラムで「宗教」の授業を展開した。年度途中で宗教科担当のシスターが担任代行を務める事態となり、ほとんどのクラスの宗教授業を新任の教員（カトリック信者）が担うことになった。しっかりと授業研究や準備をする必要があった。

#### イ 新学習指導要領に沿ったカリキュラムの改訂

全教科、新しいカリキュラムでの授業を展開した。研究主題である「共に学び合う授業」を目指し力を入れる予定であったが、コロナ感染予防のためにペア学習やグループ学習などの活動に制限がかかった。できることを見つけて行うという一年であったので、「学び合い」は十分にはできなかった。

4年生以上の理科ではデジタル教科書を使用し有効に活用しながら、児童の理解を深められるようにした。その後、社会科でも導入する予定であったが、教科書会社が異なり、別アプリが必要となったため見送ることにした。



## ウ プログラミング教育の研究

プログラミング教育の必修化に伴い、ICT委員会を中心に推進していくことを考えていたが計画していた学習はあまり進んでいない。1学期休校中は自宅での学習（ロイロノート）に使うためiPadを持ち帰った。2学期は学校での授業ができたものの、3学期には2度目の緊急事態宣言が発出されたため、再度iPadを持ち帰り、対面授業が行えない教科については授業時数の確保のため自宅でロイロノートの課題を行うようにした。

## エ 教員研修

(ア) 創立者の精神を深め、サレジアンカラーを意識して生活できるよう毎週サレジアンカラーを皆で読み祈った。また、職員会のはじめには『ドン・ボスコの心で教えよう』を読んだ。また、サイテックでの研修会にも多くの教員が参加しドン・ボスコの教育について学ぶことができた。

(イ) 新任教員には、授業力・教師力アップと積極的に仕事に取り組むことを、また、中堅教員には責任をもって若手を指導しながら、学校を担う者としての自覚を養うよう推進するため研修を行ってきた。中堅教員の中でも40代の研修を行ったが、学校の運営は全教員が担っているという意識がまだまだ薄いと感じられた。

## オ いじめ及び体罰防止についての方針作成

(ア) いじめについて

a 本校の「いじめ防止基本方針」を見直し、より本校の現状に即したものに改訂する予定だったが、まだ完成していない。

b 「いじめ」防止のため、各教員はより積極的に子ども達とかかわるよう努めてきた。トラブル等が発生した際には、担任-学年主任-教頭-校長という流れで解決に向かうように進めた。

(イ) 体罰について

a 教職員に徹底するため、体罰防止については定期的に話をしたり声をかけたりし、児童指導については複数で対応した。

b 体罰行為があった場合の対応方法のマニュアルはまだ完成していない。

## カ 入試広報活動

(ア) 女子入学者を確保するため新たな試みを実践する。

a 目黒星美たんけん会（2月 年中児対象）⇒中止

b 運動会へのご招待（5月 年齢は問わず）⇒中止

## スポーツフェスティバルに変えドローン撮影

c 体験スクールの工夫（6月2回 年長児対象）⇒中止

d 出向いていく ⇒中止

⇒ほとんどの計画が中止となったが、代案として7月から8月に学校案内会（全70回）を開催。参加者の9割以上が入試を受け、入学にこぎつけた。

### (イ) 給食の導入を検討

入学者確保の対策の一つとして給食の導入を検討していたが、コロナ禍にあってはこれも望めないため、現段階では導入しないことに決定した。

## キ 働き方改革（令和3年度実施を目指して）

### (ア) 時程変更の検討

児童のゆとりある学習と、教員の働き方改革を考慮し、令和3年度から一コマ40分授業とすることを検討していたが、今年度途中でこの計画を前倒し実施した。児童は密を避けられるよう時間をずらして下校させ14時すぎには全員が下校している。

教員はその後、会議等の時間を取り、15時35分または15時55分には終礼を行い、早めの退勤を可能とした。

### (イ) 2学期制検討

これまでの3学期制から2学期制に変更し、成績処理や面談等での負担を軽減する予定であったが、計画は進んでいない。

## (8) 星美学園幼稚園

### ア 教育プロジェクトの成果と反省

行事等中止となったが、普段の生活を丁寧に過ごし、子ども達の声を聞きながらじっくりと遊びこむことができた。今年目標である「こころを開いて喜んで生活する子ども」を育てるために、子どもたちの『やってみたい』を支えながら生活や遊びを組み立てる事が出来たと感じる。

### イ 新型コロナウイルス感染症防止による行事等の中止・縮小

(ア) 保育参観中止の為、園生活の様子を頻りにクラス便りで保護者に伝えた。

(イ) 未就園児星の子会全会中止（募集広報）を決定した。

(ウ) 幼稚園の見学会は、9月11日から10月9日までの間に実施した。1日の見学者を3組～5組に限定し、1時間半かけて園の教育方針や魅力を丁寧に伝えた。

(エ) 小学生との交流会は中止にしたが、短期大学の実習生の受け入れをし、

中学校高等学校の職場体験は、教員へのインタビュー形式に変更して実施した。

ウ 新しい生活様式として実施事項

- (ア) 登園時の検温，健康観察
- (イ) 手洗い，うがいの励行
- (ウ) 園舎，遊具等使用箇所の消毒の徹底
- (エ) 昼食は，一方向を向き話しをせずに，速やかに摂るよう指導
- (オ) 更新したウォータークーラーは，子どもの使用を控え，保育者が子どもの水筒に水を補充する際に使用

2 施設及び設備の主要事業

星美学園は、老朽化した施設設備を計画的に更新し、また、新型コロナウイルス感染症防止のための機器・消耗品を取得して教育に影響が出ないように努めた。

(1) 法人本部

1	星美学園中学校高等学校普通教室棟改修工事
2	自動車更新
3	防火扉の更新
4	園舎壁面ネオン看板更新
5	消火栓ポンプ更新
6	オンライン会議システムの整備

(2) 星美学園短期大学

1	事務システムディスクトップPC更新
2	電気エアコン更新(2F)
3	自動火災報知設備受信機更新
4	ICT教育用無線LAN・マルチメディアマスター卓・VIDシステムリプレイス整備(遠隔授業用・補助金対象)
5	サーモカメラ整備

(3) 星美学園中学校高等学校

1	生徒用パソコンリプレイス(補助金対象)
2	学校改革費用

3	授業第三者評価費
4	体育館空調機・サーモカメラ整備（補助金対象）

(4) 目黒星美学園中学高等学校

1	職員室のコピー機更新
2	学校改革費用
3	非構造物耐震工事（ラウラ講堂：飛散防止フィルム施工） （補助金対象）
4	パンフレット等リニューアル
5	気化熱冷風機・非接触体温計の購入（補助金対象）

(5) 星美学園小学校

1	校務支援システムの整備
2	ガラス飛散防止工事（補助金対象）
3	プレハブ撤去・倉庫新設（適法化）
4	2階渡り廊下漏水防止工事
5	職員室電源改修工事
6	サーモカメラ・無線LAN等の整備（補助金対象）

(6) 目黒星美学園小学校

1	照明のLED化（地下，階段）（補助金対象）
2	デジタル教科書導入費
3	ICT環境整備
4	教室窓枠補修（3・4年生）
5	防火扉の自動化
6	サーモカメラ整備（補助金対象）

(7) 星美学園幼稚園

1	2階ホール廊下腰板修繕
2	床修繕
3	舞台照明操作卓保全工事壁付け
4	ウォータークーラー更新

### Ⅲ 財務の状況

#### 1 資金収支計算書

(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,554,123,500	1,541,141,820	12,981,680
手数料収入	22,502,000	24,108,912	△ 1,606,912
寄付金収入	60,564,000	66,291,544	△ 5,727,544
補助金収入	928,135,000	1,020,956,082	△ 92,821,082
資産売却収入	0	42,770	△ 42,770
付随事業・収益事業収入	9,790,000	6,270,195	3,519,805
受取利息・配当金収入	7,650,000	5,799,265	1,850,735
雑収入	109,467,000	93,857,334	15,609,666
借入金等収入	0	250,000	△ 250,000
前受金収入	309,290,000	292,864,560	16,425,440
その他の収入	930,729,847	992,310,468	△ 61,580,621
資金収入調整勘定	△ 337,058,110	△ 414,839,360	77,781,250
前年度繰越支払資金	1,398,341,624	1,398,341,624	
収入の部合計	4,993,534,861	5,027,395,214	△ 33,860,353

(支出の部)			
人件費支出	2,039,480,000	1,914,127,638	125,352,362
教育研究経費支出	511,295,000	495,892,408	15,402,592
管理経費支出	186,640,000	143,018,670	43,621,330
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	200,000	0	200,000
施設関係支出	871,666,170	860,240,446	11,425,724
設備関係支出	158,100,000	120,941,381	37,158,619
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	52,558,941	55,700,743	△ 3,141,802
〔予備費〕	54,866,170		
	20,133,830		20,133,830
資金支出調整勘定	△ 36,643,635	△ 31,664,619	△ 4,979,016
翌年度繰越支払資金	1,190,104,555	1,469,138,547	△ 279,033,992
支出の部合計	4,993,534,861	5,027,395,214	△ 33,860,353

#### 概 要

資金収支における収入面では、高等教育就学支援新制度及び新型コロナウイルス感染症予防に関する補助金が増え、また、星美学園中学校高等学校普通教室棟改修のため、減価償却引当特定資産取崩収入8億5,400万円を含む収入合計は、50億2,739万円となった。

一方、支出は、新型コロナウイルス感染症対策及び星美学園中学校高等学校普通教室棟改修などで施設関係支出8億6,024万円、設備関係支出1億2,094万円を含め、対前年度比25.7%増となった。

## 2 事業活動収支計算書

(単位：円)

科 目		予 算	決 算	差 異
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,554,123,500	1,541,141,820	12,981,680
	手数料	22,502,000	24,108,912	△ 1,606,912
	寄付金	37,164,000	29,816,556	7,347,444
	経常費等補助金	907,845,000	971,295,082	△ 63,450,082
	付随事業収入	5,890,000	930,831	4,959,169
	雑収入	109,467,000	91,593,913	17,873,087
	教育活動収入計	2,636,991,500	2,658,887,114	△ 21,895,614
	人件費	2,039,480,000	1,914,127,638	125,352,362
	教育研究経費	998,295,000	962,617,444	35,677,556
	管理経費	204,840,000	157,105,190	47,734,810
	徴収不能額等	1,091,815	1,091,815	0
	教育活動支出計	3,243,706,815	3,034,942,087	208,764,728
教育活動収支差額	△ 606,715,315	△ 376,054,973	△ 230,660,342	
教育活動外収支	受取利息・配当金	7,650,000	5,799,265	1,850,735
	その他の教育活動外収入	3,900,000	3,900,000	0
	教育活動外収入計	11,550,000	9,699,265	1,850,735
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	11,550,000	9,699,265	1,850,735
経常収支差額	△ 595,165,315	△ 366,355,708	△ 228,809,607	
特別収支	資産売却差額	0	42,670	△ 42,670
	その他の特別収入	43,690,000	95,068,322	△ 51,378,322
	特別収入計	43,690,000	95,110,992	△ 51,420,992
	資産処分差額	0	4,737,986	△ 4,737,986
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	0	4,737,986	△ 4,737,986
特別収支差額	43,690,000	90,373,006	△ 46,683,006	
[予備費]	1,091,815	0	73,908,185	
	73,908,185	0	73,908,185	
基本金組入前当年度収支差額	△ 625,383,500	△ 275,982,702	△ 349,400,798	
基本金組入額合計	△ 922,100,000	△ 734,972,157	△ 187,127,843	
当年度収支差額	△ 1,547,483,500	△ 1,010,954,859	△ 536,528,641	
前年度繰越収支差額	5,994,775,014	5,994,775,014	0	
基本金取崩額	0	31,151,889	△ 31,151,889	
翌年度繰越収支差額	4,447,291,514	5,014,972,044	△ 567,680,530	

(参考)

事業活動収入計	2,692,231,500	2,763,697,371	△ 71,465,871
事業活動支出計	3,317,615,000	3,039,680,073	277,934,927

## 概 要

事業活動収支における収入面では、対前年度比0.52%増の27億6,369万円となった。一方、支出面では、対前年度比3.36%増の30億3,968万円となり、経常収支は、△3億6,635万円の赤字となった。

基本金組入前当年度収支差額（事業活動収入－事業活動支出）は、△2億7,598万円となり、また、星美学園中学校高等学校普通教室棟改修等をしたことから基本金へ7億3,497万円組入れた結果、当年度収支差額は、△10億1,095万円となった。

### 3 貸借対照表

#### 資産の部

(単位：円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資 産	固定資産	28,697,342,412	29,064,682,650	△ 367,340,238
	有形固定資産	10,424,895,090	9,936,961,603	487,933,487
	特定資産	18,143,647,008	19,006,916,000	△ 863,268,992
	その他の固定資産	128,800,314	120,805,047	7,995,267
	流動資産	1,603,710,500	1,483,121,454	120,589,046
	合 計	30,301,052,912	30,547,804,104	△ 246,751,192

#### 負債の部, 純資産の部

科 目		本年度末	前年度末	増 減
負 債	固定負債	182,188,212	195,954,108	△ 13,765,896
	流動負債	579,149,390	536,151,984	42,997,406
	負債の部合計	761,337,602	732,106,092	29,231,510
純 資 産	基本金	24,524,743,266	23,820,922,998	703,820,268
	繰越収支差額	5,014,972,044	5,994,775,014	△ 979,802,970
	純資産の部合計	29,539,715,310	29,815,698,012	△ 275,982,702
合 計		30,301,052,912	30,547,804,104	△ 246,751,192

#### 概 要

資産の部合計は、前年度末より2億4,675万円減の303億105万円となった。

負債の部については、前年度末に比べ2,923万円増え、7億6,133万円になった。

純資産の部は、繰越収支差額が9億7,980万円減ったため、295億3,971万円となった。